

学校教育アンケート【まとめ】

1 評価方法

- ① 1年間の学校の教育活動（教育目標・学習指導・安全管理・保護者地域住民との連携・生徒指導・教育課程等）について、保護者（児童数）・全児童・教職員を対象に、年度に1回、2学期末に評価を行う。
- ② Microsoft Forms によるインターネット評価をする。
- ③ 児童については、全学年、各学級で行う。

2 集計と評価・改善案

教頭・教務・学校評価検討委員会を通して作成する。

結果は職員会議で教職員に公表し、2月に保護者向け通知とともにホームページ上で公表する。3月3日開催の第4回学校運営会議において結果説明を行い、次年度に向けた改善意見をいただき、学校運営に役立てる。

柏市立逆井小 令和4年度 アンケート実施数			
クラス	在籍数(回収数)	保護者数(回収数)	教職員数(回収数)
1年	51(47)	51(37)	33(33)
2年	53(53)	53(38)	
3年	53(48)	53(36)	
4年	50(46)	50(37)	
5年	56(52)	56(45)	
6年	55(52)	55(38)	
なのはな	各学年集計へ	各学年集計へ	
未選択	0	0	
計	318(298)	318(231)	33(33)
回収率	93.7%	72.6%	100.0%

●児童アンケートより● 299人分 回収率93.7%

【そう思う】【まあそう思う】の肯定的な評価の高い回答は、「宿題は、必ずやっている(97%)」「先生や友だち、地域の人に進んであいさつをしている(97%)」「そうじゃ係、日直や給食当番など自分の仕事はきちんとやっている(98%)」「先生は、分かりやすい授業を行ってくれる(97%)」「先生は、学習でわからない

いところがあると、ていねいに教えてくれる (98%)」「交通ルールや、きまりを守って過ごしている (97%)」である。

【そう思う】【まあそう思う】の肯定的な評価の低い回答は、「授業中、自分から進んで発表している (71%)」「家では宿題以外の勉強もしている (77%)」「本を読むのが好きである (77%)」である。

昨年同時期のアンケートと比較して高まったものは、「先生や友だち、地域の人の進んであいさつをしている (↑4%)」、「テレビやゲームの時間は、親子で話し合っ決めて (↑4%)」である。

低くなったものは、「先生は、タブレット (iPad 等) を使った授業にすすんで取り組んでいる (↓3%)」である。

児童は、生活面においてはあいさつや仕事の役割、きまりなど生活面について肯定的に回答している。学校でもあいさつ運動や掃除・給食、委員会・係活動など継続的に実施しており、また家庭でも呼びかけていただいている成果だと考える。

一方、宿題は取り組んでいるが、宿題以外の勉強もしている児童の割合は少なく、この割合は昨年同様変化していない。与えられたことは素直にこなしているが、自ら課題を見つけ取り組んでいくことに消極的であると考え。下校後は習い事で忙しい児童もいると思われるが、話を聞くと家庭でゲームや動画視聴に時間を費やしている児童も多いように思われる。テレビやゲームのルールについて親子で話し合っている割合は増えたが、それ以外に児童が興味・関心を持てるようなきっかけや時間を家族一緒に共有できるとよいと考える。

学習面において多くの児童が、先生はわかりやすい授業を行ってくれ、ていねいに教えてくれると回答している。日頃から本校担任は、授業を工夫して子ども達に話し合いや協働作業の場を設けて、児童の関心・興味を引き出している場面が多く見られる。授業中、自分から進んで発表しているという項目が低いのは、昔のような教師主体の一斉指導で指名発表させる場面が減ってきていることが理由と考えられる。一方、タブレット (一人一台端末) への取り組みについては、保護者からの回答と対比的に低くなった。児童は使える活用の幅が広がり、もっと活用して学びたいという意欲のあらわれと考える。ただ使えばよいのではなく、どういう使い方をすれば子ども達の学びを深められるかという視点を大切にしていきたい。

●保護者アンケートより● 231人分 回収率72.6%

【そう思う】【まあそう思う】の肯定的な評価の高い回答は、「お子さんは宿題を、必ずやっている (95%)」「教員は、児童がわかりやすい授業づくりの工夫を

している (95%)」「お子さんは交通ルールや、きまりを守って過ごしている (96%)」「家庭では、学校の教育活動に協力するようにしている (97%)」「学校はホームページやメール・学校だより等で、教育活動をわかりやすく伝えていると思う (97%)」である。

【そう思う】【まあそう思う】の肯定的な評価の低い回答は、「お子さんは読書が好きである (48%)」「お子さんは、家の手伝い等をすすんで行っている (67%)」である。

昨年同時期のアンケートと比較して高まったものは、「お子さんは家の手伝い等をすすんで行っている (↑5%)」「教員は児童がわかりやすい授業づくりの工夫をしている (↑5%)」「教員は、分からないところがあると、丁寧に教えている (↑5%)」「テレビやゲームの時間は親子で話し合っ決めていく (↑5%)」「家庭では、学校の教育活動に協力するようにしている (↑6%)」「学校は、タブレットを活用する等、ICT 機器を使った教育活動に積極的に取り組んでいると思う (↑4%)」「学校は地域・保護者と連携して教育活動を行っていると思う (8%)」。

低くなったものは、「お子さんは学校に行くのを楽しみにしている (↓4%)」「お子さんは家庭学習 (自主学習) の習慣が身につけてきている (↓4%)」である。

学校の学習活動においては、教員の授業の工夫や、丁寧な教え方については児童同様肯定的な回答が多く向上している。これは、年4回の授業参観、学校だよりや学年・学級だよりのお知らせ、学校ホームページによる日頃の活動情報の公開によってもわかりやすく伝えられており、理解が図られていると考えられる。

宿題はするが、自主学習の習慣が身につけているという回答結果も、児童のものとはほぼ同等である。

今回、最も高まったのが地域・保護者との連携である。コロナ禍が以前より緩和されてきていることもあるが、地域連携としては、コミュニティスクールのボランティアによる公園探検や昔遊び・ボランティア体験等、また、柏陵高校生徒による夏休みの学習などが充実した。PTA 企画・運営のエビネ祭においても児童はとても充実した体験ができたとの感想が多かった。登下校のパトロールについても、保護者の配置計画の調整ができ改善されている。交通安全ボランティアである「エビネ隊」の活動も2月15日発行の「広報かしわ」で取り上げられた。

家の手伝いをすすんで行っているという項目のポイントが上がっていることも注目される。家庭の中で自分の役割があるということは、自分が必要とされている自己有用感が高まる。やらされ感のある任せ方ではなく、感謝の気持ちを伝えるなど自主性を大切にできるよう働きかけていく必要がある。

●教職員アンケートより● 33人分 回収率100%

【そう思う】【まあそう思う】の肯定的な評価の高い回答は、「児童は、学校に来るのを楽しみにしている(100.0%)」「児童は授業に積極的に参加している(97%)」「私は、児童がわかりやすい授業づくりのために授業改善に努めている(100%)」「児童が学習内容で理解できないときは、個々に丁寧に指導している(100%)」「児童・保護者の相談には丁寧な対処を心がけている(100%)」「児童一人ひとりの思いを大切にした学年・学級経営を行っている(100%)」「学校はホームページやメール・学校だより等で、教育活動をわかりやすく伝えている(100%)」「学校は、地域・保護者と連携して教育活動を行っている(100%)」「本校の教育活動全般について満足している(97%)」である。

【そう思う】【まあそう思う】の肯定的な評価の低い回答は、「児童は、家庭学習(自主学習)の習慣が身につけてきている(52%)」「児童は、教員や友だち、地域の方に進んであいさつしている(67%)」「私は、タブレットをはじめとしたICT機器を活用した授業づくりに積極的に取り組んでいる(65%)」「児童は、テレビやゲームの時間を家庭できちんと決めている(21%)」「家庭は、学校の教育活動に協力的だ(68%)」であった。

昨年同時期のアンケートと比較して高まったものは、「児童は、清掃・係活動にきちんと取り組み、自分の責任を果たしている(↑7%)」「児童は、友だちに対して思いやりのある言動が取れる(↑8%)」「私は、児童がわかりやすい授業づくりのために授業改善に努めている(↑7%)」「児童一人ひとりの思いを大切にした学年・学級経営を行っている(↑6%)」である。

低くなったものは、「児童は家庭学習(自主学習)の習慣が身につけてきている(↓11%)」「児童は、教員や友だち、地域の方に進んであいさつしている(↓10%)」「私は、タブレットをはじめとしたICT機器を活用した授業づくりに積極的に取り組んでいる(↓23%)」「児童は、テレビやゲームの時間を家庭できちんと決めている(↓16%)」「家庭は、学校の教育活動に協力的だ(↓19%)」であった。

教職員から見て、児童は、学校に来ることを楽しみにしていると感じており、また、清掃・係活動にきちんと取り組み、自分の責任を果たしていると回答している割合が多い。

また、教職員として児童や保護者に対して丁寧な対応をし、かつ学校教育活動をわかりやすく伝えているとしている。学習面では、児童が学習内容で理解出来ないときは、個々に丁寧に指導しようとしている姿がうかがえる。これは、児童や保護者の回答とも同様である。

教員と児童・保護者との意識の差異が大きいのは、児童のあいさつについて

である。児童・保護者とも 90%以上ができる、させているとの回答であった。地域の安全ボランティアの方々からも、あいさつをしなくなってきたとの声もある。理由は色々考えられるが、本人があいさつをしたつもりでも、今はマスクをして表情も伝わりにくいため、相手に伝わるように声の大きさや会釈を入れるなど意識する必要があるのではないか。

先に示したように、学習面については三者とも高評価であるが、教員のみ ICT 活用度の自己評価が低い。児童はよく使っているようだが、タブレットは活用していても、教員が授業で活用しなければならないという意識が強いためではないだろうか。本来、タブレットは児童自身が協働的・主体的な学びを引き出すツールとして活用するものである。教員はその学びの機会を保障する授業のあり方を追究していけるようにしたい。

家庭についての回答として、テレビやゲームの時間のきまりや学校の教育活動への協力について低かった。人数としては少ない事例であっても、非常時に家庭に連絡がつかない、家庭内のトラブルにおいて教員が相談に応じることが長時間になり、全体指導に影響する負担感の大きさが原因にあると考えられる。また、保護者の車が許可なく駐車場に乗り入れ、児童の安全性や職員の業務に支障をきたす場面も生じている。これらについては引き続き理解をはかっていく必要があると考える。

今後とも児童・保護者と教職員との信頼関係を築き、その信頼関係を基に教育活動をすすめることが大切である。